

繊維部会

2011年上期の回顧と下期の展望

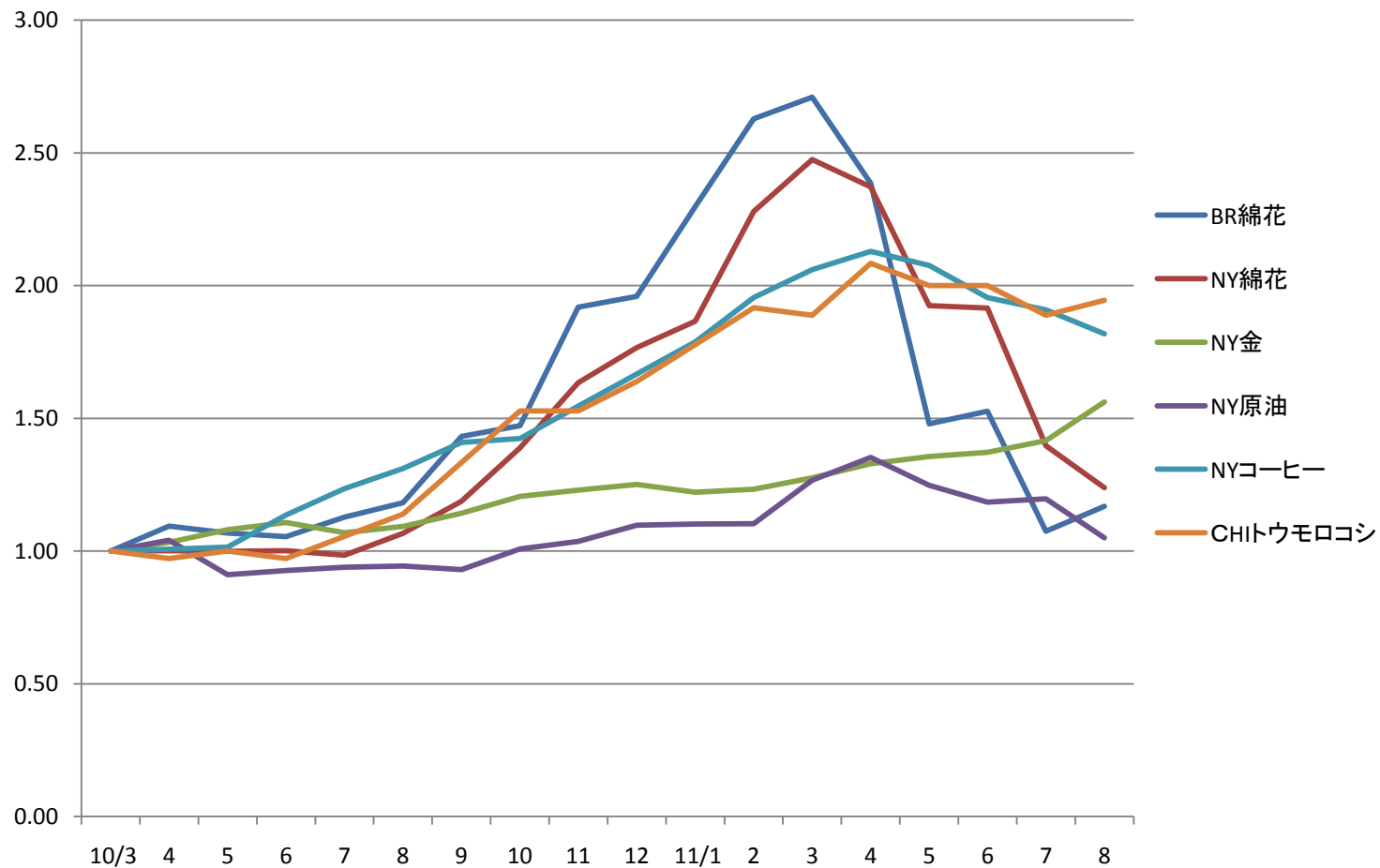
2011年8月23日

繊維部会は	ダイワ・ド・ブラジル	綿紡績＋オープンエンド紡績
	クラシキ・ド・ブラジル	綿紡績＋羊毛紡績
	日清紡・ド・ブラジル	綿紡績
	オーミ・ド・ブラジル	綿紡績
	東洋紡・ド・ブラジル	綿紡績＋織布
	ユニチカ・ド・ブラジル	綿紡績
	サンヨーテックス	紳士服地＋婦人服地
	YKK・ド・ブラジル	ファスナー＋ボタン

以上8社中6社が綿紡績を主たる事業としている。

2011年の綿紡績の厳しい状況を中心に報告します。

＊金、原油、綿花(ニューヨーク定期、エザルキ)、トウモロコシ、コーヒーの2010年3月からの推移グラフ



(ブラジル綿花(原綿)相場はエザルキ、それ以外は日経新聞の商品相場の数値を10年3月を1として、指数化しています。)

国内綿糸 2011年上期の回顧

2011年上期の国内綿糸市場は、第1四半期こそ、30%強の値上げが通り堅調に推移した。

しかし、第2四半期に入り、市況は激変し、綿糸相場は35%強も暴落した。

紡績各社は、大幅な赤字転落を余儀なくされている。

相場下落の理由として、次の3点が考えられる。

1. 綿花(原綿)相場の高騰と暴落による綿糸市場の混乱

ブラジル綿花相場は、2011年3月15日に、史上最高値4,01R\$/Lbを記録した。

7月には、1.58まで暴落した。

NY定期綿花相場は、4月に2,10us\$/Lbの南北戦争以来の高値を記録した。

7月には、1.36まで暴落した。

ユーザーの買い控えにより、紡績各社の綿糸在庫が膨れ、綿糸相場の下落に歯止めが掛らぬ状況が続いている。

紡績各社の在庫の原綿は、高値水準のままであり、現在の綿糸相場では、赤字販売となり、

危機的状況に直面している。

空紡糸についても、綿紡糸同様、年初糸値アップは実現したが、その後安値中国製品におされ、需要が落込み

減産又は、生産ストップ等厳しい状況となった。

2. 繊維製品の販売不振

最終消費者が、自己のクレジット状況・消費行動を冷静に見直しつつあり、繊維製品に対する需要に陰りが出ている。

繊維小売業界は、寒さが遅れた為に、5月まで売上を伸ばせず、苦戦したが、6月は、前年同月比40%以上伸びた。

冬物は寒さが長く続いた為、店頭販売は、好調だった。しかし、春物の店頭投入が遅れ、小売店やアパレルの在庫が増加している。

アパレルは、糸、生地の値上げで、製品価格の値上げを余儀なくされ、受注が減り、且つ、輸入製品との価格競争で苦戦している。衣料の輸入は、昨対、57%増、既成服の輸入は38%増加した。

分野別では、紳士服は悪い、婦人服、ユニフォーム市場は、拡大傾向が続いている。

ジーンズ分野では、販売が見込みを下回り、市中在庫が増加し、第二四半期以降ファスナー販売に陰りが見え始めた。

婦人服分野では、トレンドが、ニットから、先染め格子柄織物製品に変わり、コンシールファスナーの販売が昨年に続き好調を維持した。又、ファスナーを使用したサンダルブーツの流行もあり、靴分野は好調に推移した。

ユニフォーム分野の厚地織物は、インフラ関連工事減により、若干減少しているが、商業・サービス業向け、薄地織物は、昨年並みを維持している。

3. レアル高に伴う、輸入綿糸、輸入製品との競合

レアルは、06年の2.2r\$ / us\$ から1.6r\$ / us\$ までレアル高が進行し、06年2万トン超あった、

綿糸の輸出は、309トンで、5年間で35分の1まで減少した。

綿糸の輸入は、毎年倍増しているが、主たる輸入国である、インドの綿糸輸出規制があり、昨対半減したが、

その後インド国内での在庫増により、ブラジルへの安値オファーで市場をかく乱しつつある。

長期的・構造的なレアル高傾向により、量販店チェーン、SPAや大手アパレルが、中国をはじめアジアでの

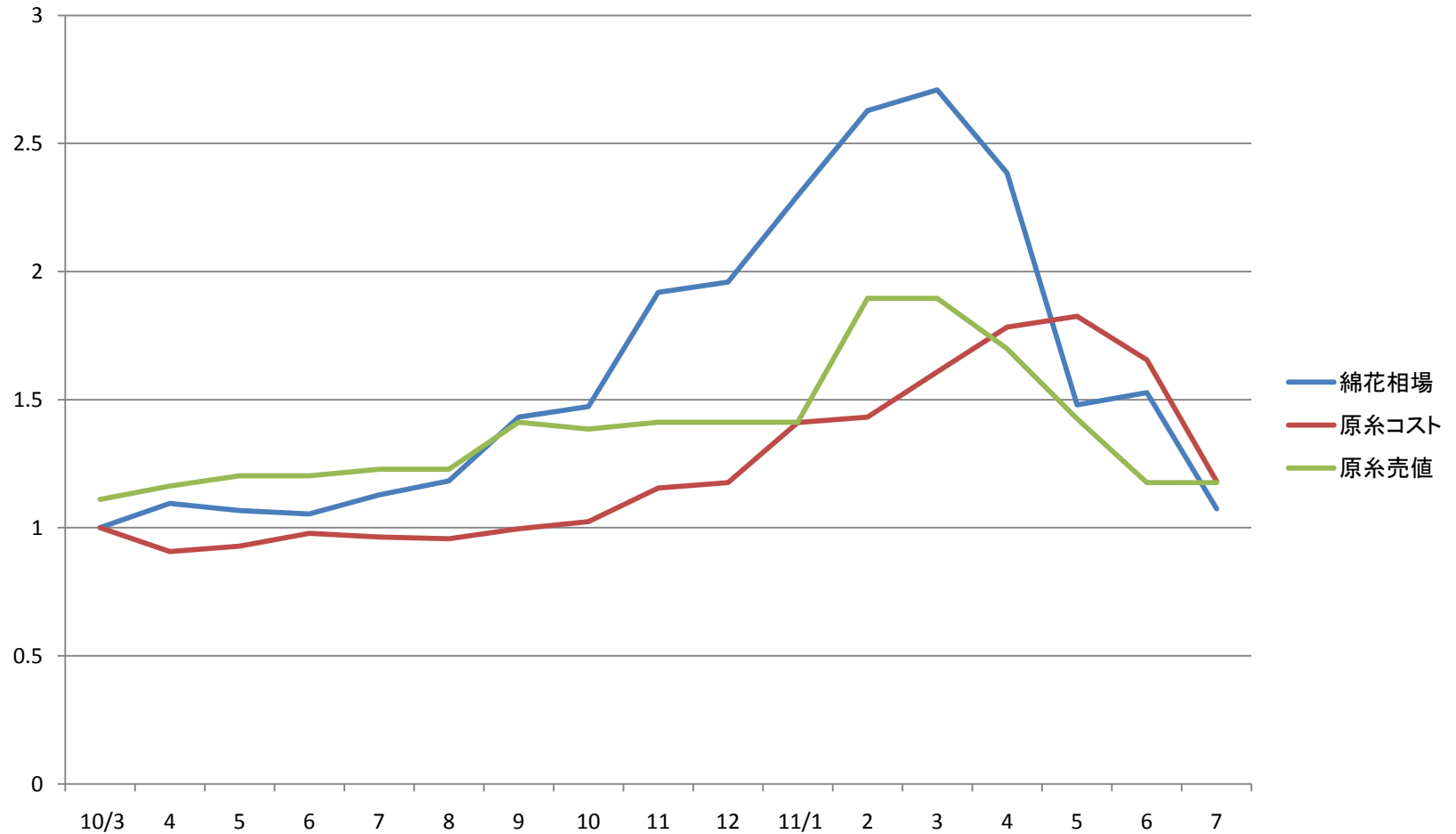
海外生産・調達を増やしている。これまで比較的ブラジル国産品の牙城であった綿カットソーやジーンズまで

海外生産・調達の比率が増加している。

我々紡績の主要ユーザーは、比較的国産比率の高いカットソーメーカーであるが、小売市場での輸入製品との

競合に晒されており、現在のレアル高は、ブラジル国内で操業する繊維製造業にとり死活問題である。

2011年上期の原綿価格の推移と原糸販売価格の推移と想定されるコストの推移をグラフにしました。
2010年3月を1として、指数化しています。原糸売値は、原糸コストの10年3月を1にしています。



国内綿糸 2011年下期の展望

2011年下期は何とか市況が底打ちさせ、価格転嫁を図る一方、原綿コストの入替えをすすめ、早期の赤字脱却と収益力の回復が切望される。その為には、次の3点かが重要なポイントであると考える。

1. 過剰在庫の削減

紡績・ユーザーともに高値の糸在庫を抱えており、今後夏物の糸手当てが進む中で早期の在庫削減が必要である。

原綿については、不透明な要素も多いが大幅な需給緩和から相場は弱含みで推移すると思われ、上期の高コスト

原綿からの入替えをしつつ、綿糸相場の回復を図らねばならない。

綿花相場は、主要綿産国の増産予想、綿糸市況低迷による、世界的な紡績の回復遅れから弱含みが予想されている。

アメリカのテキサス綿の早魃の影響、原綿の大ユーザーである、中国の手薄になった備蓄綿の補充時期……

ブラジル国内原綿も、一部地域の雨不足による減産や品質不良綿の増加、又寒波による収穫の遅れ等の影響から

綿花相場は不透明で、1.6R\$/Lbを割込んだエザルキが上昇を続け、1.9R\$/Lbを超え続伸している。

綿糸相場は、インド綿糸の安値オファーの影響や綿糸在庫が多い、原綿価格の下落・高騰等の相反する情報により、

混迷を深めている。

2. 価格転嫁

原綿相場が弱含みのなか、価格転嫁あるいは維持は非常に困難が伴う。原綿相場が安定した時点で綿糸相場もしかるべきところに収斂されるという見方もあるが、前述した業界の販売低迷や輸入との競合等もあり、紡績の適正な利ザヤを確保した綿糸相場へ持っていけるかどうか予断を許さない。

夏物の本格生産に入る下期の早い段階で一段の価格転嫁が必要であり、紡績各社の協調が不可欠である。

例年ニット製品の生産時期と販売時期は、半年のギャップがあり、真冬の今は、夏物の糸から編・織の最盛期で糸の生産は、10月には、来年の冬物へ切替わる。

6月には、夏物の生産が活発になり、綿糸の販売が伸びるはずでしたが、7月になっても、原糸購入の勢いがつかない。

織物については、インフラ関連工事が再度加速し、ユニフォームの需要は回復し、衣料は、原料価格の低下を受けて、生地値が下がり、クリスマス商戦も含め、販売量の増加が期待される。

ファスナーの分野では、サンダルブーツへのファスナー使いの流行が縮小する傾向があり、好調さを維持出来ない。

3. 業界団体としての陳情

何かと纏りの悪いABITであるが、ブラジルの繊維は170万人の雇用を守っている。インド輸入糸に対するアンチダンピング提訴や、アジアからの輸入製品増加に対する何らかのガード、あるいは国内繊維産業へのインセンチーボの連邦政府への陳情など、リーダーシップを発揮してやるべき仕事はたくさんある。

綿花相場の形成システム エザルキと、それにもたれた取引習慣にも、何らかのメスを入れるべきである。

繊維部会も、ABITの一員として、課題の解決に取り組んでいきます。